

日 時：平成26年10月27日（月）18時30分～20時

場 所：小和森多目的研修集会施設

対象町会：小和森

参加者：6名

■要望、質疑応答

内 容
<p>○道路の舗装について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>町会要望でも提出している案件であるが、100円販売に向かう砂利道を舗装してほしい。今回初めて要望する場所であるがよろしく願います。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・町会要望の件については、11月27日の行政委員連絡会議に向けて回答を準備しており、現在担当課と連絡をとっている最中である。行政が実施するのがよいのか、マイロードマイタウン事業を活用していただいで町会で行うことがいいのか等、検討しなければならない。担当課と協議して11月27日に回答したい。
<p>○空き家について</p> <p>（市民からの要望・質問）</p> <p>町会内に空き家があり、所有者も亡くなってしまった。屋根も壊れかけており隣近所の住民も不安がっている。これからも空き家は増えていくことが考えられ、町会長としても心配している。</p> <p>（市の回答）</p> <ul style="list-style-type: none">・空き家は全国で820万戸と言われている。青森県でも10万戸を超える空き家があると言われている。・当市でも今年の春の段階では、平賀地域で142戸、尾上地域で88戸、碓ヶ関地域193戸の空き家を把握している。現実にはもっとあるかもしれない。・弘前市でも空き家条例を制定している。平川市でも制定する予定である。条例案は3月議会に提案する予定であり、制定に向けて委員会の設置などを考えている。・再利用できる空き家もあれば、今にも倒壊しそうな空き家もある。これをどうにかしなければならないが、危険個所は市で対応するとしても、個人の財産にはなかなか手をかけられない状況である。市の費用で解体しても、その費用を誰に請求していいのかもわからない。・対策のひとつとして、国では、空き家を解体して更地にすると固定資産税が高くなるので、その改正を考えているようである。・所有者の許可を得たうえで高齢者住宅に改築するという案もあるが、簡単にはいかない

だろう。今の時点で妙案はまだないのが現状である。

- ・空き家については、市でも必要に応じて所有者を探し、手紙を出したりしている。

○地方創生について

(市民からの要望・質問)

平川市では地方創生を具体化するための組織を作っているか。

(市の回答)

- ・国では、地方にアイデアを出してもらい、いいものを採用していくという考え方のようだ。市でも地方創生に対応したことを考えていかなければならないが、現時点では特に地方創生の部署をつくっていない。プロジェクトチームなどを作ればいいのか、現在の課の中で話し合っていけばいいのかは検討中です。
- ・国の方針としては、ソフト事業に対する交付金を考えているものと思う。
- ・特に人口減少対策が地方創生における課題であると思うので、そのために市独自で実施している保育料の無料化などが対象となるのであれば手をあげていきたいと思う。
- ・今のところ、地方創生のために新しく何かやることを考えていることはない。
- ・人口減少の問題は以前からの課題であり、市でもこれまでに様々な取り組みを行ってきた経緯もある。
- ・この懇談会を始めた理由には、人口減少社会に対応した社会を作るために「地域自治組織」のようなものを作りたいという思いがあった。将来的に町会単位のコミュニティが維持できなくなるかもしれないからである。
- ・平川市も人口減少が見込まれ、あと20年くらいで22,000人まで落ちるという推計もある。そうなった場合、近隣の区域と地域自治組織を作る必要も出てくるのかもしれない。
- ・現在の平川市は町会のコミュニティが機能しているので今はまだ大丈夫だと思うが、将来的には考えていかなければならないかもしれない。

○自転車の乗り方について

(市民からの要望・質問)

通学路で子供たちの見守りをやっているが、自転車は左を通行しなければならないが、小和森地区から荒田へ向かう道路は右側に歩道がない。通学路であるが、自転車が歩道を通るため危ないので、右側にも歩道をつけてほしい。

(市の回答)

- ・新屋町、荒田からも同じような要望が出ていた。続いている道路である。
- ・場所もわかっているし、水路が深いことも知っている。
- ・様々な地域からの要望がある。一度にはできないこともあり、話を聞きながら一番危ないところから順番に解決していきたいと思う。

○バイオマス発電所について

(市民からの要望・質問)

バイオマス発電所が建設されているが、間伐材や剪定枝などどのように集めるのか。稲わらなども集めてくれるといいのだが。

(市の回答)

- ・発電所と同じ敷地にチップ工場を置き、隣の旧尾上町の処分場を路盤改良して貯木場を作る。そこまで運んでくるのは林業の業者である。
- ・今まで切り捨てていた間伐材を利用してもらえるようになる。
- ・この事業で90人くらいの雇用を見込んでいるが半分以上は林業によるものである。
- ・稲わらは堆肥化して土に戻すのがいいが、高齢者にとってなかなか大変である。
- ・黒石地区清掃組合で、稲わらやリンゴの搾りかすなどを活用したバイオコークスを作る計画があると聞いている。

○請願、陳情について

(市民からの要望・質問)

請願書には議員の名前が必要とあるが、どういう意味なのか。また、議員から提案書などの提出はあるものか。

(市の回答)

- ・議会の受付手順である。紹介する議員が必要で、議会で可決すれば国や県にあげていくというものである。
- ・議員から、市を元気にするためのプロジェクトチームなどを立ち上げてはどうか。という提案があり、現在検討しているところである。
- ・理事者側からの提案を議会が審議することが多い。議会からの提案もできることとされているが、それはごく稀である。

○市民と議員の懇談会について

(市民からの要望・質問)

市民と議員が懇談する機会があればいいと思うが、そういう機会はあるか。

(市の回答)

- ・平川市ではないだろう。全国には「議会基本条例」などを制定し、報告会等を行っているところはある。

○埋蔵文化財について

(市民からの要望・質問)

すぐそこに畑をもっているが埋蔵文化財がからんでおり、税金が高い。どうにかならないものか。

(市の回答)

- ・税金が高いのは、都市計画区域にあるからと考えられる。
- ・都市計画区域内では農地はなじまないのので、宅地化を進めてくださいという位置づけである。しかし、その場所に埋蔵文化財がある可能性がある場所として指定されている場合は発掘が必要となり、その費用は1㎡あたり1万円が見込まれる。
- ・尾上地域でもこのような事例があり、従来の農地と同じくらいの金額まで税額を下げ対応した。
- ・開発の計画がある場合には市に相談してほしい。
- ・発掘においては国の補助もなく、市が単独で実施した場合億単位の費用が見込まれる。

(市民からの要望・質問)

今後、市街化区域が広がっていく可能性はあるのか。

(市の回答)

- ・人口が増えない中で、市街化区域が広がる可能性はかなり低いと考えられる。

○農業政策について

(市民からの要望・質問)

米の値段が安くなり、これではもう米を作りたくない。1俵7,000円～8,000円と安くなっても経費は変わらない。これでは後継者が育たない。市では何か対策を考えているか。

(市の回答)

- ・JAの仮払いが1俵8,000円と、3割安とのことである。
- ・あと数年で減反が廃止され、自由競争となることから安くなるかもしれない。大変であると思うが現実的に米が余っている中で、需要と供給のバランスが崩れている状況とも言える。
- ・国の政策としては、米は自由に作らせるが、価格補てんはしないという考えである。
- ・市としては利子補給などの支援はできるが、1俵の単価に上乘せすることは無理だろう。
- ・改良区費が高いと言う声もあるが、改良区としても今までの投資もある。
- ・米に頼るだけでなく、他の作物にも目を向けるなど、工夫が必要になってくる時代となるのかもしれない。

○総合運動施設の敷地について

(市民からの要望・質問)

総合運動施設の敷地利用について、構想はあるか。

(市の回答)

- ・来年度から2年の計画で、陸上競技場、ソフトボール2面（多目的広場として）を作るための工事にかかる予定である。
- ・財源は、合併特例債を活用する予定である。
- ・当時の、22,000人の平賀町で、計画するものとして、身の丈にあったものを作っ
てはどうか。ということで、ソフトボールの規模に合わせて作ったという経緯がある。
- ・現在は毎日予約が入っており、ほとんど空きがない状態である。多少の不便さはあろう
かと思うが、成果はあったものと考えている。

○災害対応について

(市民からの要望・質問)

災害対応をできるだけ早くやってほしい。

(市の回答)

- ・箇所数がとても多く、担当部署も24時間体制で土日も休みなしで対応している。
- ・それでも対応が遅れたところもあるのも事実である。今後とも丁寧に説明させながら進
めていくのでよろしく願います。